



もりのふしぎ

むしたちのふゆのすごしかた

イラスト/たけだあおい

このコーナーでは、環境問題・自然に関することをポノロンといっしょに学んでいきます。
ぜひお父さまとの対話のきっかけにしてください。



はっぱもかれて、むしたちもいないし、ふゆのもりはなんだかさみしいワン。

ふゆのあいだ、むしたちはそれぞれくふうしているロン。たとえば、てんとうむしはからだをよせあって、かれはのうらや、きのみきですごすロン。



ほかにはどんなすごしかたがあるワン？

かふとむしはようちゅうのまま、つちのなかですごすロン。チョウはさなぎになって、はっぱやえだにいるロン。



さむくても、むしたちはいきているんだワン！

すがたはみえなくても、むしたちはそれぞれのほうほうでふゆをこしているロン。ふゆのもりでであったら、そっとしてあげてほしいロン。



おうちの方へ 昆虫は外気温の変化によって体温が変わる変温動物です。温帯で暮らすほとんどの昆虫は気温が下がると休眠状態に入り、卵から成虫までそれぞれの種類によって越冬に適した発育ステージになります。例えばカマキリの仲間は卵の状態での木の枝や葉に。カブトムシやセミの仲間は幼虫の姿で土の中で過ごします。チョウやテントウムシは種類によりますが、蛹となり枝や葉などで冬眠するものや、成虫のまま集団で身を寄せ合い、枯れ葉の裏や木の幹で寒さにじっと耐えるものなどがいます。
参考文献：『虫たちの越冬戦略 昆虫はどうやって寒さに耐えるか』（北海道大学出版会）
監修：セブン-イレブン記念財団 高尾の森自然学校 後藤章



▲枝で寝を作り越冬するミノガの幼虫ミノムシ